

明赫奕たる佛の國に生たるこ、ち也、此外雪籠りの艱難さまざまあれど、くだくしければざるさず、鳥獸は雪中食无をしりて、雪淺き國へ去るもあれど一定ならず、雪中に籠り居て朝夕をなすものは、人と熊犬猫也。

雪道 冬の雪は脆なるゆゑ、人の蹈固たる跡をゆくはやすけれど、往來の旅人一宿の夜大雪降ば、ふみがためたる一條の雪道、雪に埋り途をうしなふゆゑ、郊原にいたりては方位をわかちがたし、此時は里人幾十人を備ひ、橇かたきぎがりにて道を蹈開せ、跡に隨て行也、此費幾緡の錢を費すゆゑ、貧しき旅人は人の道をひらかすを待て、空く時を移もあり、健足の飛脚といへども、雪道を行は一日二三里に過ず、橇にて足自在ならず、雪膝を越すゆゑ也、これ冬の雪中一ツの艱難也、春は雪凍て鐵石のごとくなれば、雪車そり又雪舟なみの字を以て重を乗す、里人は雪車に物をのせ、おのれものりて雪上を行事舟のごとくす、雪中は牛馬の足立ざるゆゑ、すべて雪車を用ふ、春の雪中重を負しむる事牛馬に勝る、雪車の制作別に記す、形大小種あり、大なるを修羅といふ、雪國の便利第一の用具也、雪凍りたる時にあらざれば用ひがたし、ゆゑに里人雪舟途と唱ふ、

〔北越雪譜 初編下〕童の雪遊び 我があたりは、まばいへることく、およそ十月より翌年の三

月するまでは、歳を越て半年は雪也、此なかに生れ、此なかに成長するゆゑ、わらべの雪遊びをなす事さまざまありて、暖國にはなき事多し、その中に暖國の人にはおもひもよらざるあそびあり、まづ雪を高く掘揚おきたる上などを、童ども打よりて手あそびの木鋤にて平らになしてふみつけ、をわらべも雪中にはわらべつなはくこと、雪國のつれなり、さて雪をあつめて土塚を作るやうに、よほどの圍をつくりなし、その間ひにも雪にて壁めく所をつくり、こゝに入り口をひらきて、隣の家とし、すべての圍にも入り口をひらく、此内に宮めかす所を作り、まへに階をまうけ、宮の内に神の御體とも見ゆるやうにつくりする、これを天神さまと稱し、よびす大に、筵など煮きつめ、物を煮べき所をも